

SDGsと学術 -世界の学術会議の動向-

ICSUによるSDGs論評 (2015)

- ✓MDGsが無視していた重要な要素（不平等、消費など）が入った
- ✓全体として何を目標しているのかの統合目標と説明が必要
- ✓目標やターゲット間のトレードオフと相補性を続報で特記すべき
- ✓他の国際合意との整合性が必要
- ✓目標達成に必要な政府以外のアクターが十分に組み込まれていない
- ✓目標が多すぎるが、その長所もある
- ✓実行主体とその動機付け、目標達成の時空間スケールの明確化が必要

世界のアカデミーのSDGs取り組み状況

- ✓先進国（IMF定義、米国、オランダ）：消極的
- ✓東欧（ハンガリー、ポーランド）：消極的
- ✓新興国（南アフリカ）：積極的
- ✓**先進国（日本）：提言との関係で積極的**



3

SDGsと学術 -会員からの意見-

2018/4 総会時部会、科学と社会委員会、幹事会での議論より

積極的に進めるべき

- ✓世界共通の課題を学術会議が取り組む必要
- ✓地球規模の課題に取り組む際の**共通言語**として使用
- ✓研究が**社会にとってどういう意味**があるかが問われる際、その**正当化**に使える
- ✓研究者が**研究の意義**を考え、語るための**手段**と捉えるべき

批判的であるべき

- ✓SDGsであれば**誰も文句を言えなくなる**ような方向を懸念すべき
- ✓**政府主導**の潮流に単に取り込まれないように注意
- ✓学術が**縛られる**のは問題

提案

- ✓日本らしいもの、日本らしいやり方を提言できるとよい
- ✓17目標に**該当しない課題**を拾うべきではないか（芸術、スポーツなど）
- ✓何をすべきかから考え、**分野横断**で課題設定を考える必要
- ✓社会実装を目指す研究の場合は、**物差し**として使えば良い
- ✓**これからの提言**だけでなく、**過去の提言**の振り返りを行う必要
- ✓**提言作成時にSDGsとの関係**を紐付ける



4

第24期学術会議におけるSDGsの取り組み

1. 学術会議からSDGsへの貢献

- ① 世界の社会課題をSDGsとの関係で捉え、SDGs達成に貢献
第23期提言等とSDGsの関係をHPで公開
第24期提言発出時にSDGsとの関係性を示して公開
- ② SDGsの枠組みだけでは十分に反映されない学術の社会への貢献
“Beyond SDGs”の取り組み

2. SDGs対応による学術会議の体質改善

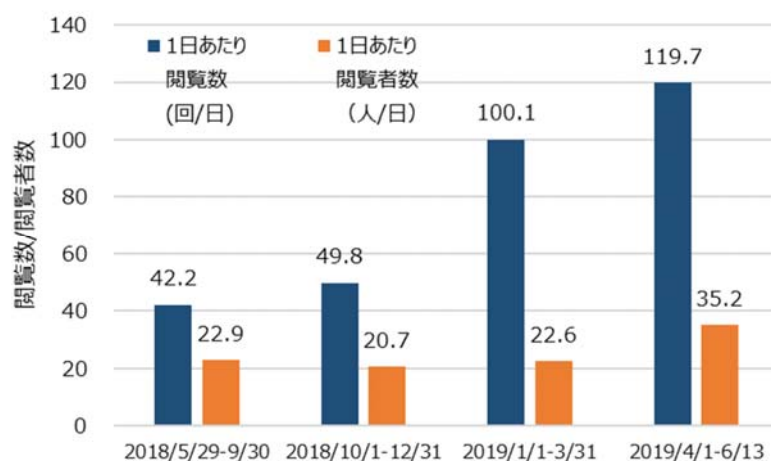
- ① 「社会との対話」を重視
- ② 分野を超えた社会的課題の取り組み強化
幹事会で分野横断課題の検討と委員会設置
人口縮小社会、認知症社会、野生生物管理と保護、自動運転
防災減災、危機対応科学情報発信、スポーツのあり方など
(Well-being、17目標の関連性(曖昧を許容する境界設定に基づく関係性))



5

SDGsコーナーの閲覧数推移

徐々に閲覧数が増加、学術会議HP閲覧数の約1割に



	閲覧数 (回)	閲覧者数 (人)	一人当たり 閲覧数 (回/人)	1日あたり 閲覧数 (回/日)	1日あたり 閲覧者数 (人/日)
2018/5/29-9/30	5,274	2,859	1.8	42.2	22.9
2018/10/1-12/31	4,580	1,903	2.4	49.8	20.7
2019/1/1-3/31	9,011	2,037	4.4	100.1	22.6
2019/4/1-6/13	8,855	2,604	3.4	119.7	35.2
合計 (平均)	27,720	9,403	3.0	77.9	25.3

6

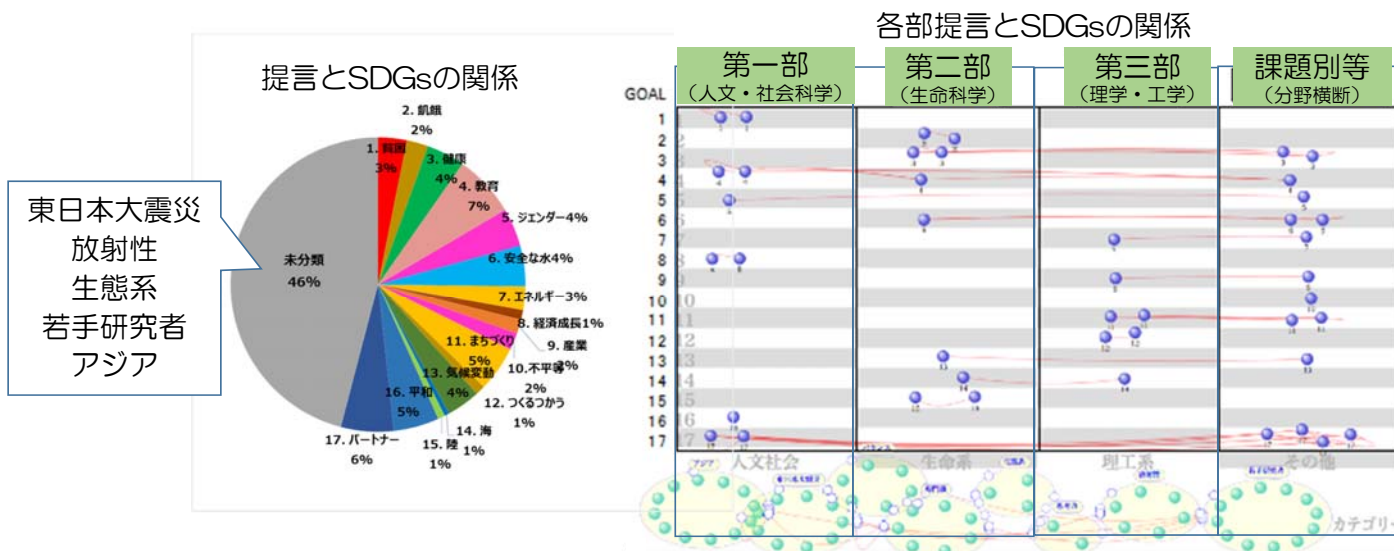
提言とSDGsの関係をテキストマイニングで分析

第三部総合工学委員会による分析

方法：各文書における単語の使用有無をベクトル値に変換

MIMAサーチで提言全文を検索・分析し、SDGsとの関係を可視化

対象：2008年度以降の提言285件



7

第5期科学技術基本計画/学術会議提言とSDGsの相関

総合工学委員会 小山田幹事中心

分析方法

テキストマイニング
(MIMAサーチ)

SDGs定義文

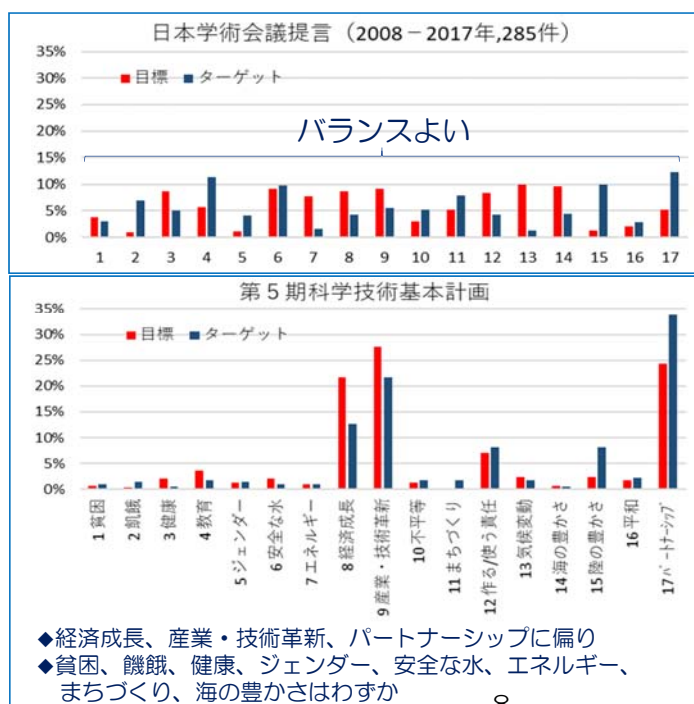
17目標、169ターゲット
に基づき

第5期科学技術基本計画

全文(全100項目)を分類、
各項目の文書類似度第3位
までの目標に振り分け

学術会議提言

2008年度～2017年度
発表提言 285件を対象
各提言の全文書、文書
類似度第3位までの目標に
振り分け



8

8

SDGsの先を考える



9

SDGsを超えた課題に対する学術会議の提言

文化

地域に根ざした身近な文化財を守るために「持続的な文化財保護のために一特に埋蔵文化財における喫緊の課題—」
人口減少の中、地域に伝わる文化財は住民の心のよりどころとして今後一層大きな役割を果たすものの、その保護について新たな課題が急速に顕在化しています。埋蔵文化財の持続的な保護と活用のために、地方分権下での埋蔵文化財に関する法的権限のあり方、埋蔵文化財保護のための人材育成、遺跡調査情報の継承と活用について提言しました。

人類共通の遺産を未来へ「21世紀の博物館・美術館のあるべき姿—博物館法の改正へ向けて」
海外の博物館・美術館に関しては、文化財保護法を柱として博物館・美術館規定をそれに盛り込み一元化した法律を制定している国が多い一方、我が国では、博物館法と文化財保護法の間に整合性が欠如しています。自然・文化に係わる人類共通の遺産を未来へと継承するために、博物館法の改正、博物館の水準を向上させる新登録制度設計と研究機能の充実について提案しました。

多様性

地域の文化、社会、歴史を大切にするために「音声言語及び手話言語の多様性の保存・活用とそのための環境整備」
近年、これまで日常言語として役割を果たしてきた方言や話し言葉、手話言語の多様性が衰退し、言語の画一化が進みつつあります。その多様性が失われれば、子どもたちのその後の発達基盤となる言語が画一化し、多様な発想を生む素地がなくなり、また、日本文化の多様性を解明する糸口がなくなることを意味します。ここでは、音声言語及び手話言語のアーカイブの構築と活用、そのための人材育成と法整備について提言をまとめました。

人が盲目的に人工知能の指示に従わないために「科学的知見の創出に資する可視化に向けて」
見えないものを見るようにするのが可視化ですが、人間が人工知能とともに人間らしい科学的知見を創出するためには可視化が大きな役割を担います。例えば、スパコンなどの評価指標では、計算速度や実験的発見の他に、人間の脳に届くまでの時間や重要特徴に気付くまでの時間も考慮に入れる必要があります。人間の多様な特性と価値観を可視化で理解することが重要です。

研究

健全な社会性を担う脳のメカニズムを探るために「融合社会脳研究の創生と展開」
徐々に健全な社会性が失われつつある現代の情報化社会において、他者への共感と思いやりなどの健全な社会性の形成と維持の脳内メカニズムを解明し、社会脳研究の成果を情報化社会に還元することや、心の理論やワーキングメモリなどがどのように思考や理解などの高次脳機能とかわるのかを解明する社会脳研究の必要性を訴えました。

社会の実態を的確に把握するために「社会調査をめぐる環境変化と問題解決に向けて」
社会的な実態を捉えるためには、適切な母集団を設定し、その母集団に対して代表性のある標本から情報を得る必要がありますが、対象者が適切に設定された母集団から無作為に抽出されていないインターネット調査が増加しています。これを回避するために、信用できる社会調査であることを証明する認証制度、学術研究には住民基本台帳・選挙人名簿の閲覧を容易にすること、統計法の見直しなどが必要であると提言しました。

10

日本発 SDGsのその先 ―学術会議の課題―

日本の特徴を活かした議論と提案が必要

1. 日本からの提案：科学と社会委員会（アジア学術会議など）
2. 伝統文化と学術：地方学術会議（京都）
3. 人口縮小社会：課題別委員会（少子化人口縮小、認知症、野生動物との共存）
4. スポーツ：課題別委員会（2020東京オリンピック・パラリンピック）
5. 芸術：？
6. 防災減災：課題別委員会
7. ???：地方学術会議（富山）

